令和7年度 東邦音楽大学 音楽学部 音楽学科 【パフォーマンス総合芸術文化専攻】 カリキュラムツリー(履修系統図)

	科目の区分	1年次	2年次	3年次	4年次	
		前期後期	前期後期	前期 後期	前期後期	
教養と技能およびキャリアを育む 全学共通カリキュ ラム「東邦スタン ダード」を設置す る。	基礎教育科目	スタンダートB 全学共通科目(講義・演習系) (人間提究) 文化芸術論A・B/グローバルミュージックA・B	芸術文化とユネスコA 芸術文化とユネスコB 芸術文化とユネスコB <u>芸術文化とユネスコB</u> <u>技術文化とユネスコB</u> <u>技術文化とユネスコB</u> <u>技術文化とユネスコB</u>	B(※令和7年度はBは未開講)/情報スキルA・B(R5入学生入学生より(自然理例	解)区分)	多面的な履修を 通して社会生活 において必須とされる汎用的な能力 ・エンターティ 大ントに関す
広範で多様な基礎知識の獲得と専門性を高めるために、体験がでいて、体験がでいて、 で幅広い学齢がでにない学齢を設置する。	外国の言語と文化	Basic English 1 Advanced English 1 Communication Skills I A Advanced Communication Skills I A ドイツ語圏異文化コミュニケーションA Advanced Communication Skills I B ドイツ語圏異文化コミュニケーションB	Career English A Communication Skills II A Advanced Communication Skills II A Advanced Communication Skills II B	→ English Presentation A English Presentation B	赤字 ········必修科目 青字 ········選択必修科目 黒字 ········選択科目	本
専門的な方法論 と知識を学ぶた めに、順次性が あるカリキュラム を編成する。	共通専門教	音楽の基礎理論A (R5年度以降入学生は選択) 音楽の基礎理論B (基礎和声を含む) (R5年度以降入学生は選択) ライブパフォーマンス &スタッフワークA ライブパフォーマンス &スタッフワークB	日本の伝統音楽概説 A 日本の伝統音楽概説 B	ビジネスチャレンジャー A ビジネスチャレンジャー B (3~4年次) ショービズベイシックソルフェージュ A (3~4年次) ジュ B (3~4年次)		現代社会に必要 とされるコミュニ 思 ケーション能力 考
高い芸術性を修 得するため、専攻 実技は個人レッ スンを実施する。	音			西洋音楽史/日本音楽史/エンタメビジネスA・B/キャリア・クリエイティブ・メソ		判 体系的学修と実 時、践に基づいた課 力 題の発見、分析、 解決をする能力
専攻を超えて、幅 広い領域の科目 を履修し総合的 視点を養う。	楽専門教育科目	P.A.C.S. 1 (Performance, the Arts and Culture Studies) ポップス・ポーカルアプローチA ポップス・ポーカルアプローチB	P.A.C.S. 3 (Performance, the Arts and Culture Studies) P.A.C.S. 4 (Performance, the Arts and Culture Studies) エンタメプロデュースA エンタメプロデュースB	P.A.C.S. 5 (Performance, the Arts and Culture Studies) P.A.C.S. 6 (Performance, the Arts and Culture Studies)	P.A.C.S. 7 (Performance,the Arts and Culture Studies) P.A.C.S. 8 (Performance,the Arts and Culture Studies)	イ 現 カ ロ ロ ロンテーション能 フ カ カ カ カ カ カ カ カ カ カ カ カ カ カ カ カ カ カ
知識の活用能 カ、批判的・論理	・マンス総合芸	-	ステージングとパフォーマンス/演技とパフォーマンス/THE業	表界人(仕事の流儀) I A·B The Science of Sound (音の科学) A·B		り 専門分野を超え で問題を探求す る姿勢
的思考力、課題 探求力、問題解 決力、表現能力、 コミュニケーション ため、アクティブ・ ラーニングを取り 入れた参加型の	術 文 化			THE業界人(仕事の流儀) II A・B セルフプロデュース パフォーマンスA プオーマンスB	卒業研究発表	国際感覚を身に 着け、世界に路 み出そうとする意 欲
少人数授業を実施する。	人間教	ヒューマンコミュニケーション1	・ ヒューマンコミュニケーション2 キャリア実践(パフォーマンス総合芸術文化専攻) I	→ とューマンコミュニケーション3 → キャリア実践(パフォーマンス総合芸術文化専攻) II →	とューマンコミュニケーション4 キャリア実践(パフォーマンス総合芸術文化専攻)III	 数 自己や他者の役 関 できる広に強野 心 (自己管理能力・・・チームワーク)
国際的に通用する幅広い知識を 持ち、芸術文化 の発展に貢献で きる人材育成。	育 科 目		インターンシップ(パフォーマンス総合芸術文化専攻) [インターンシップ (パフォーマンス総合芸術文化専攻) II オンエアプロデュースA オンエアプロデュースB	インターンシップ(パフォーマンス総合芸術文化専攻)Ⅲ	点 生涯にわたって 性 探求しようとする 姿勢(生涯学習力)
身に着けた知識 やスキルを統合 し、問題解決力と 新たな価値の創	文化教養 科目	音楽実技 IA 音楽実技 IB 声楽・ピアノ・管楽器・弦楽器・打楽器・電子オルガン・シンガーソングライターアーティストより選択 「アーティストより選択		音楽実技 ⅢA 音楽実技 ⅢB 声楽・ピアノ・管楽器・弦楽器・打楽器・ 電子オルガン・シンガーソングライター アーティストより選択		多様な価値を認 め、主体性をもっ て積極的に社会 に貢献しようとす る意欲(社会的責 任・チームワー

令和7年度 東邦音楽大学 音楽学部 音楽学科 【教職実践専攻】カリキュラムツリー(履修系統図)

	科目	の区分	前期	<i>年次</i> 後期	╛	前期	年次 後期	1	前期	後期		前期	後期			*
教養と技能およ			スタンダート I A	スタンタ*ート* I B	→	スタンタ・ート・Ⅱ A (R5年度以降入学生は選択)	スタンダ・ート* Ⅱ B (R5年度以降入学生は選択)								タエルト見ぬナ	
パキャリアを育む 全学共通カリ		基	全学共通科目(講義·演習系) (人間探究)哲学A·B(※令和	7年度は未開講)/文化芸術論A	•B/コミュニ	ケーション論(社会的視点)日本国	憲法と生活A・B/国際理解と交流	ħΑ•Β/	社会福祉概論〔老人・児童福祉を	含む]A·B (自然理解) ひとを読	み解く利	⇒学A・B/現代の心理学[発達心]	理を含む]A・B/コンピュータ演習A・		多面的な履修を 通して社会生活 において必須とさ	・学修 確です い教和
キュラム「東邦ス タンダード」を設		礎 教	В		1										れる汎用的な能力	うこと
置する。		育 科	スポーツ演習 教職入門(人間提究)	スポ [®] ーツ文化論 教育心理学(自然理解)	=		-		教育方法(情報通信技術を活用した教					4	ŧn	音楽教育に
		Ē	教育学概説(社会的視点)	教育相談・進路指導(人間探究)				_	育の理論及び方法を含む) (社会的視点)			赤字 必修科目		i	載	関する専門 的知識・技 野を担
太範で多様な基						ウィーンの社会と文化A (R5年度以降入学生は選択)	ウィーンの社会と文化B (R5年度以降入学生は選択)							1	・ 技 専攻分野を中心	能を修得 性を引
楚知識の獲得と 専門性を高める		外	トイツ語1	ト・イツ語2	7	ドイツ語3	ト・イツ語4	1				青字選択必修科目		Í	能とした知識と技能	教育実践に 富んだ 案や教 活用することができる。
ために、体系的 で幅広い学修が		国 の	英語1 イタリア語1	英語2 イタリア語2	_	英語3 イタリア語3	英語4 イタリア語4					黒字選択科目				とかできる。
可能な科目群を 設置する。		言語と	ト・イツ語圏異文化コミュニケーション1		- 1		ト・イツ語圏異文化コミュニケーション4					赤字教職科目			国際的な視野に立った広範な文	10746
		文化	英語圏異文化コミュニケーション1	英語圏異文化コミュニケーション2	1	英語圏異文化コミュニケーション3	英語圏異文化コミュニケーション4		±1/± >+ A	41#.HD	1	<u> </u>			化の理解	・ICT機 通信技 して授
明めかま	_		イタリア語圏異文化コミュニケーション1 和声学1	1 イタリア語圏異文化コミュニケーション 和声学2	2 →	和声学3	イタリア語圏異文化コミュニケーション4 和声学4	-	対位法A 楽式論A(作曲法・編曲法を含む)	対位法B 楽式論B(作曲法・編曲法を含む)						活動をとか
『門的な方法論 と知識を学ぶた かに、順次性が			音楽の基礎理論A	音楽の基礎理論B			187 7 7	1	オ [°] ピュラーミューシ [*] ックA(作曲法・編曲法を	オ°ピュラーミュージックB(作曲法・編曲法を				J	現代社会に必要 とされるコミュニ	
らるカリキュラム を編成する。		共	民族音楽学A 音楽史A	民族音楽学B 音楽史B		教育行政 道徳教育の指導法		_	含む)R7年度入学生より履修可	含む)R8年度入学生より履修可] -			1	考 ケーション能力 カー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
正時 [八丁] 00		通 専	音楽療法概論			生徒指導の方法及び教育課程の意義と編成 特別活動の指導法	音楽における情報機器の活用 特別支援を必要とする生徒の理解		→	総合的な学習の時間の指導法	-	教育実習指導 教育実習	教職実践演習(中•高)			
高い芸術性を修 得するため、専		門 教				教育総合科目(教職実践) I A	教育総合科目(教職実践) I B	-	教育総合科目(教職実践)Ⅱ A	教育総合科目(教職実践)ⅡB	1	70 d X B	I	ì	判 体系的学修と実 新 践に基づいた課	
攻実技は個人 ツスンを実施す		育科					L 対)I (R4年度入学生まで履修可) I (令和5年度入学生より履修可)	1_	インターンシップ(教職実践専攻 教育現場体験(教職実践専攻)		Ī			7	カ 題の発見、分析、 解決をする能力	
る 。		Ë	共通専門科目(講義系)			软月坑物件款(软棋大成寺以)	1(甲和3年及八十工より度形刊)		软目机物件款(软粮大成寻水 /	1(下和3千度八子工み7度形可/	J			ā	表	
			指揮法(1~3年次)/音楽文(選択) <mark>/音楽療法的音楽論</mark> (R6年度 ペラ]A・B/作品研究[歌曲]A・B						現 力 自己発信のプレ ゼンテーション能	
		\vdash	音楽実技1(R6年度入学生まで履修可)	音楽実技2(R6年度入学生まで履修可)		音楽実技3(R6年度入学生まで履修可)	音楽実技4(R6年度入学生まで履修可)	→	音楽実技5(R6年度入学生まで履修可)	音楽実技6(R6年度入学生まで履修可)		音楽実技7(R6年度入学生まで履修可)	音楽実技8(R6年度入学生まで履修可)		カ	
			Vo·Pf·管弦打	Vo·Pf·管弦打 教職特講(教職実践専攻) I	-	Vo·Pf·管弦打	Vo·Pf·管弦打 教職特講(教職実践専攻)Ⅱ	┨_	Vo·Pf·管弦打	Vo·Pf·管弦打 教職特講(教職実践専攻)Ⅲ	_	Vo·Pf·管弦打 教職特講(教職実践専攻)Ⅳ	Vo·Pf·管弦打			
専攻を超えて、			教職実践IA	(R6年度入学生まで履修可) 教職実践IB	-	教職実践ⅡA	(R6年度入学生まで履修可) 教職実践ⅡB	┨ ̄	教職実践ⅢA	(R6年度入学生まで履修可) 教職実践ⅢB	-	(R6年度入学生まで履修可) 教職実践IVA	教職実践ⅣB	ディ		
品広い領域の科 国を履修し総合			(R7年度入学生より履修可)	(R7年度入学生より履修可)		(R7年度入学生より履修可)	(R7年度入学生より履修可)		(R7年度入学生より履修可)	(R7年度入学生より履修可)	-	(R7年度入学生より履修可)	(R7年度入学生より履修可)	ププ		
的視点を養う。	音		<u>教職実践専攻実技IA</u> Vo・Pf・管弦打 (R7年度入学生より履修可)	<u>教職実践専攻実技ⅠB</u> Vo・Pf・管弦打 (R7年度入学生より履修可)	-	<u>教職実践専攻実技ⅡA</u> Vo・Pf・管弦打 (R7年度入学生より履修可)	<u>教職実践専攻実技ⅡB</u> Vo・Pf・管弦打 (R7年度入学生より履修可)	-	<u>教職実践専攻実技ⅢA</u> Vo・Pf・管弦打 (R7年度入学生より履修可)	<u>教職実践専攻実技ⅢB</u> Vo・Pf・管弦打 (R7年度入学生より履修可)	-	<u>教職実践専攻実技IVA</u> Vo・Pf・管弦打 (R7年度入学生より履修可)	<u>教職実践専攻実技IVB</u> Vo・Pf・管弦打 (R7年度入学生より履修可)	ロマ	専門分野を超え	
	楽			,2,,,20,,20,,		(11,12,1,12,1,12,1,1	楽器の特性と機能(教職)	1	合奏A(和楽器を含む)	合奏B(和楽器を含む)	i	,		ポ	て問題を探求す る姿勢	
	門教	教職				ピアノ指導者を目指す人のための	(R5年度以降入学生は選択) (R7年度は未開講) ピアノ指導者を目指す人のための	1	口关八(和未能を自任)	口矢の(和未能を自む)				IJ		
	育科	実践				音楽教育学入門A 音楽科教育法A	音楽教育学入門B 音楽科教育法B		音楽科教材研究A	音楽科教材研究B	1			シー		
	目	専				教材伴奏法 I A	教材伴奏法IB	1	教材伴奏法ⅡA (R5年度以降入学生は選択)	教材伴奏法ⅡB (R5年度以降入学生は選択)						
		以	合唱IA	合唱IB	-	合唱ⅡA	合唱IIB	-	合唱ⅢA(歌唱指導法・日本の伝統 的な歌唱を含む)	合唱ⅢB(歌唱指導法・日本の伝統 的な歌唱を含む)	-	合唱IVA (R5年度以降入学生は選択)	合唱IVB (R5年度以降入学生は選択)		国際感覚を身に	
知識の活用能 り、批判的・論理			副科声楽IA	副科声楽IB	=	副科声楽 II A	副科声楽ⅡB	1	※ 副科声楽ⅢA	※ 副科声楽ⅢB	i	※ 副科声楽IVA	※ 副科声楽ⅣB		着け、世界に踏 み出そうとする意	
的思考力、課題 探求力、問題解			副科ピアノIA	副科ピアノIB	→	副科ピアノIIA	副科ピアノIIB	-	副科ピアノIIIA	副科ピアノⅢB	-	副科ピアノIVA	副科ピアノIVB	j	意 欲	
そ力、表現能力、 コミュニケーショ			副科管弦打楽器 I A 副科実技は、音楽実技で選択し	副科管弦打楽器IB した以外の専門について選択できる		副科管弦打楽器ⅡA	副科管弦打楽器ⅡB	_	※ 副科管弦打楽器ⅢA (※印の科目は、令和6年度以前に入学	※ 副科管弦打楽器ⅢB した教職実践専攻生は履修できません])	※ 副科管弦打楽器IVA (※印の科目は、令和6年度以前に入学	※ 副科管弦打楽器IVB した教職実践専攻生は履修できません)	1	•	
√能力の育成の −め、アクティブ・			ソルフェージ*ュ1	ソルフェージ・12	-	ソルフェージ*ュ3	ソルフェージ・14	-	キーホート・ハーモニーA	キーホ [*] ート [*] ハーモニーB]				判 心	
ラーニングを取り入れた参加型の		声楽		声楽選択生のみ	2.必检~	朗読法A〔ドイッ語〕	朗読法B〔イタリア語〕	1 _	オベラ研究ⅠA	学内研究発表 オベラ研究 I B	_	→ オベラ研究ⅡA	卒業研究発表 オペラ研究ⅡB		自己や他者の役表お割を理解し、協働	
少人数授業を実 施する。				产未送扒土(7)	``&`\®` `	ピアノアンサンプルA	ピア/アンサンブルB	-	チェンハ・ロ研究 I A	チェンハ・ロ研究 I B	-	fェンハ*ロ研究ⅡA	チェンバ□研究ⅡB	ļ	ウ できる広い視野 (自己管理能力・	
		ピアノ				ピアノ伴奏法IA	ピアノ伴奏法IB		ピアノ伴奏法 II A	ピアノ伴奏法ⅡB	ļ				チームワーク)	
		管弦	室内楽 I A 木管楽器クラス/金管楽器クラス 打楽器クラス/弦楽器クラス	室内楽 I B 木管楽器クラス/金管楽器クラス 打楽器クラス/弦楽器クラス	-	室内楽 II A 木管楽器クラス/金管楽器クラス 打楽器クラス/弦楽器クラス	室内楽ⅡB 木管楽器クラス/金管楽器クラス 打楽器クラス/弦楽器クラス	-	室内楽ⅢA 木管楽器クラス/金管楽器クラス 打楽器クラス/弦楽器クラス	室内楽ⅢB 木管楽器クラス/金管楽器クラス 打楽器クラス/弦楽器クラス	-	室内楽IVA 木管楽器クラス/金管楽器クラス 打楽器クラス/弦楽器クラス	室内楽ⅣB 木管楽器クラス/金管楽器クラス 打楽器クラス/弦楽器クラス			
国際的に通用する幅広い知識を		¥1	オーケストラIA	オーケストラIB	→	オーケストラエA	オーケストラエB	-	オーケストラⅢA	オーケストラⅢB	-	オーケストラIVA	オーケストラIVB		生涯にわたって	
る幅広い知識を 寺ち、芸術文化 D発展に貢献で	<u> </u>		ウイント・オーケストラ I A	ウインドオーケストラ I B		ウイント*オーケストラ Ⅱ A	ウイント*オーケストラ II B		ウイント*オーケストラⅢA ウィーンアカテ*ミー	ウインドオーケストラⅢB ・(ウィーン研修)] 	ウイント・オーケストラIV A 演奏	ウインドオーケストラIVB		探求しようとする 姿勢(生涯学習	
る人材育成。			F1-777	<u>₹1=4-5371</u>	٦ ـ	F1=₹V7\$	ュニケーション2	٦ ـ	(R7年度入	全生より選択) ユニケーション3	-	次交 とューマンコミ:			力)	
		,	£1 474	/ /4/ !			エーソークコンと 年度入学生まで履修可)	-	インターンシップ II (R6±		~	L1 1740				
身に着けた知識 やスキルを統合		間				キャリ ア実践 (R7年)	度以降入学生より履修可)	→	インターンシップ(R7年	度以降入学生より履修可)					多様な価値を認 め、主体性をもっ	
、問題解決力と 断たな価値の創		教 育					地域創造①(地域貢献と	して、オ	ーケストラ等の指導) I A・I B 地域創造①(地域貢献として	、オーケストラ等の指導)Ⅱ A・ⅡB					て積極的に社会に貢献しようとす	
たる価値の配 性につなげていく 能力や姿勢を育		科 目				<u> </u>	地域創造②(地域の学校	等の技		ィュー・ハンダムンは全)エソ・エロ					る意欲(社会的 責任・チームワー	
成する。		北美シロ				73.L° - h> 3°t white T .	male An area and the	1	地域創造②(地域の学校等の		1				ク・リーダーシッ プ)	
	又化	教養科目				コンピューダュージック演習IA	コンピュータミュージック演習IB	_	コンピュータミュージック演習ⅡA	コンピュータミュージック演習ⅡB]	收員採用試験受験特別講座				j
	課	外講座					キャリアナ	イダ ン	ス特別講座		7	从只从用叫歌又歌竹川鹊庄				

令和7年度 東邦音楽大学 音楽学部 音楽学科 【Konzertfach演奏専攻】 カリキュラムツリー(履修系統図)

	科目(の区分		年次	<u>~</u>	24	羊次	101		年次		44	F次 後期			【ピアノ専門】
	ļ		前期 スタンタ・ート・IA	後期 スタンダ・ート* I B	」 기 →	前期 スタンタ*ート* Ⅱ A	後期 スタンダ [*] ート [*] II B]]	前期	後期		前期				知識•技能
教養と技能およ びキャリアを育む 全学共通カリ キュラム「東邦ス	1 4	基 遊 教	全学共通科目(講義・演習系)	1	B/コミュニ			A • B/	/社会福祉概論〔老人・児童福祉を	含む]A·B(自然理解)ひとを読み	解く科	学A・B/現代の心理学[発達心理	型を含む]A・B/コンピュ−タ演習A・]	多面的な履修を 通して社会生活 において必須とさ	・機盤音楽の歴史 論を体系的に理解 時代様式に沿った。 ができる。
タンダード」を設置する。		育 科 目	スポーツ演習	スポーツ文化論			4. \ 044 L+/LD	1						」 与	れる汎用的な能力 力	ピアノ演奏におい て、高度な専門 的知識・技能を 修得し、自らの演 時代様式に沿った。
	Г	外 国	ドイツ語(konzertfach)1	ドイツ語(konzertfach)2	-	ウィーンの社会と文化A ドイツ語(konzertfach)3 [異文化コミュニケーションを含む]	ウィーンの社会と文化B ドイツ語(konzertfach)4 〔異文化コミュニケーションを含む〕	┪-	ドイツ語(konzertfach)5	ドイツ語(konzertfach)6	-	ドイツ語(konzertfach)7	ドイツ語(konzertfach)8	調	tt	奏スタイルを確立するとともに、 広く音楽界に通
広範で多様な基 礎知識の獲得と		自言語	英語1	英語2	-	英語3	英語4								支 専攻分野を中心 とした知識と技能	用する演奏をすることができる。 ・専門領域以外に要を拡げ、幅広いパートリーを持ち、7
専門性を高める ために、体系的 で幅広い学修が		型 文 化	イタリア語1 英語圏異文化コミュニケーション1	イタリア語2 英語圏異文化コミュニケーション2		イタリア語3 英語圏異文化コミュニケーション3	イタリア語4 英語圏異文化コミュニケーション4									音楽性と豊かな表 を持って演奏する ができる。
知 可能な科目群を 別置する。		ic .	イタリア語圏異文化コミュニケーション1	│ イタリア語圏異文化コミュニケーション2		イタリア語圏異文化コミュニケーション3	イタリア語圏異文化コミュニケーション4	_				赤字 必修科目			国際的な視野に 立った広範な文 化の理解	【声楽専門】
· 技			和声学(konzertfach)1	和声学(konzertfach)2	-	和声学(konzertfach)3	和声学(konzertfach)4	-	→ 対位法(konzertfach)A 楽式論A	対位法(konzertfach)B 楽式論B		青字 選択必修科目		-		知識・技能
能 専門的な方法論 と知識を学ぶた		共	音楽の基礎理論(konzertfach) A	音楽の基礎理論(konzertfach)B		ピアノ・管弦打楽器専門生のみ	必修↑	_	(作曲法・編曲法を含む) ポピュラーミュージックA	(作曲法・編曲法を含む) **ピュラーミュージックB		黒字 選択科目			現代社会に必要 とされるコミュニ	・声楽の高度な技術 身につけ、実践する とができる。
めに、順次性が あるカリキュラム を編成する。		通 専 門	民族音楽学A 音楽史A	民族音楽学B 音楽史B		作品研究(オペラ)A(声楽専門生のみ必修)	作品研究[オペラ]B(声楽専門生のみ必修)	1 _	(作曲法・編曲法を含む) 作品研究(歌曲)A(声楽専門生のみ必修	(作曲法・編曲法を含む) 作品研究(歌曲)B(声楽専門生のみ必修)					ケーション能力	東明公野でなる
で構成する。		教 育	音楽療法概論]										\$ 5	声楽に関する専門的知識や高度 な技能を修得し、につけ、歴史的背
京八共保州ナ 族		科 目	作品研究[楽曲分析](Konzertfach) I A ピアノ・管弦打楽器専門生のみ	作品研究[楽曲分析](Konzertfach) I B ・必修↑	_	作品研究[様式学](Konzertfach) I A	作品研究[様式学](Konzertfach) I B] -	作品研究[楽曲分析](Konzertfach) II A	作品研究[楽曲分析](Konzertfach) II B	-	作品研究[様式学](Konzertfach) II A	作品研究[様式学](Konzertfach)ⅡB		」 体系的学修と実	声楽の特徴である言葉を伴う音 楽表現に必要な
高い芸術性を修 得するため、専 攻実技は個人						/日本音楽史概説A・B/音楽音 A・B/アジア音楽文化論(R7年)			概論A•B/音楽療法的音楽論(R6 度は未開講)	年度入学生まで履修可)/日本の	上世界の	Dポピュラ―音楽(R7年度以降 <i>)</i>	、学生より履修可)(R7年度は未		所 践に基づいた課題の発見、分析、解決をする能力	知識・技術を身に つけ、表現することができる。 ・専門領域以外に
レッスンを実施する。 る。			konzertfach専門実技 1	konzertfach專門実技 2	-	konzertfach専門実技 3	konzertfach専門実技 4	-	konzertfach事門実技 5	konzertfach専門実技 6	-	konzertfach専門実技 7	konzertfach専門実技 8		5	- 専門領域以外に 野を拡げ、高い音 と豊かな表現力を て演奏することが
		k	Vo·Pf·管弦打	Vo·Pf·管弦打		Vo·Pf·管弦打	Vo·Pf·管弦打		Vo·Pf·管弦打	Vo·Pf·管弦打		Vo·Pf·管弦打	Vo·Pf·管弦打	J.	ਰ ਹ	
専攻を超えて、 幅広い領域の科 目を履修し総合		o n z	ウィーンアカデミープロフェスオネル (Konzertfach)1 (ウィーン研修)	ウィーンアカデミープロフェスパオキル (Konzertfach)2 (ウィーン研修)	-	ウィーンアカデミープロフェスィオネル (Konzertfach)3 (ウィーン研修)	ウィーンアカデミープロフェスパネネル (Konzertfach)4 (ウィーン研修)	-	ウィーンアカデミープロフェスパオネル (Konzertfach)5 (ウィーン研修)	ウィーンアカデミープロフェスパオネル (Konzertfach)6 (ウィーン研修)	-	ウィーンアがデモープロフェスパネル (Konzertfach)7 (ウィーン研修)	ウィーン7がデープロフェスパオネル (Konzertfach)8 (ウィーン研修)	デ	自己発信のプレ ゼンテーション能 カ	【管弦打楽器専門】 知識·技能
的視点を養う。	音楽	e r t	合唱IA	合唱IB	-	合唱ⅡA	合唱IIB	-	合唱ⅢA(歌唱指導法・日本の伝統 的な歌唱を含む)	合唱ⅢB(歌唱指導法・日本の伝統 的な歌唱を含む)	-	合唱IVA	合唱IVB	ププ		・管弦打楽器の音 歴史や理論を体系
	門教	f a	 ↓ピアノ専門生以外は2年次生	より履修可	_			_	合奏A(和楽器を含む)	合奏B(和楽器を含む)				ロマ	専門分野を超え て問題を探求す る姿勢	理解し、時代様沿った演奏ができ
	育科	c h 専	教材伴奏法 I A	教材伴奏法 I B	」 →	教材伴奏法ⅡA	教材伴奏法ⅡB	_		1	ı			ポリ		・専攻楽器に関す 専門分野である 一門的知識や高度 奏技術を身につい
		攻 科	ソルフェージ*ュ1	ソルフェージ*12	_	ソルフェージ*13	ソルフェージ*14	J -	キーホ*ート*ハーモニーA	キーボードハーモニーB 学内演奏		_	卒業演奏	」 シ		管弦打楽器に関する、高度な専門的知識・技能 門的知識・技能
1		B	ピアノ専門生履修不可↓	声楽専門生履修	不可⇒	副科声楽IA	副科声楽IB	1 -	▶ 副科声楽ⅡA	副科声楽ⅡB		_	干未 版文	」	国際感覚を身に 着け、世界に踏	を修得し、多様な 音楽表現ができ る。
知識の活用能 f 力、批判的・論理 n 的思考力、課題			副科ピアノIA	副科ピアノIB] -	副科ピアノⅡ A	副科ピアノⅡB				I		I .	7	み出そうとする意欲	・専門以外の楽器 性や他領域にも終 拡げて、高い音楽 豊かな表現力を料
探求力、問題解 決力、表現能力、 コミュニケーショ		声楽	朗読法(イタリア語)(Konzertfach) I A 声作り(シュティムビルドゥング)	朗読法(イタリア語)(Konzertfach) I B 声作り(シュティムピルドウング)	_	朗読法(ドイツ語)(Konzertfach) II A 声作り(シュティムビルドウング)	朗読法(ドイツ語)(Konzertfach) II B 声作り(シュティムビルドウンヴ)	-	・ オベラ研究 I A	オヘラ研究IB	-	オペラ研究ⅡA	オベラ研究ⅡB]		えんそうすることが る演奏することが る。
ン能力の育成の ため、アクティブ・		Ľ	(Konzertfach) I A(Voのみ)	(Konzertfach) I B(Voのみ)		(Konzertfach) II A(voのみ)	(Konzertfach) II B(Voのみ)				ı			_		
ラーニングを取り 入れた参加型の 少人数授業を実 施する。		アノ	ピアノ指導者を目指す人のための音楽教育学入門A	ピアノ指導者を目指す人のための音楽教育学入門B	-	ピア/アンサンブルA ピアノ伴奏法 I A	ピアノ伴奏法 I B	-	チェンハ・ロ研究 I A ピアノ伴奏法 II A	チェンパロ研究IB ピアノ伴奏法ⅡB	-	チェンパロ研究ⅡA	チェンパロ研究ⅡB	三 之 之	文	
#E 7 '00		管	室内楽 I A 木管楽器クラス/金管楽器クラス 打楽器クラス/弦楽器クラス	室内楽 I B 木管楽器クラス/金管楽器クラス 打楽器クラス/弦楽器クラス	-	室内楽ⅡA 木管楽器クラス/金管楽器クラス 打楽器クラス/弦楽器クラス	室内楽ⅡB 木管楽器クラス/金管楽器クラス 打楽器クラス/弦楽器クラス	-	室内楽ⅢA 木管楽器クラス/金管楽器クラス 打楽器クラス/弦楽器クラス	室内楽ⅢB 木管楽器クラス/金管楽器クラス 打楽器クラス/弦楽器クラス	-	室内楽IVA 木管楽器クラス/金管楽器クラス 打楽器クラス/弦楽器クラス	室内楽IVB 木管楽器クラス/金管楽器クラス 打楽器クラス/弦楽器クラス	関心	自己や他者の役割を理解し、協働 すできる広い視野 (自己管理能力・	
		弦打	オーケストラ I A	オーケストラ I B		オーケストラ II A	オーケストラIB	١.	▶ オーケストラⅢA	オーケストラⅢB	-	オーケストラIVA	オーケストラIVB	点	ま チームワーク) 可	
			ウイント・オーケストラ I A	ウイント・オーケストラ I B		ウイント*オーケストラ II A	ウイント*オーケストラ I I B		ウイント*オーケストラⅢA	ウイント・オーケストラⅢΒ		ウイント*オーケストラIVA	ウイント*オーケストラ IV B		ŧ	
		学生 目	日本事情 I A 日本語1	日本事情 I B 日本語2	-	日本事情ⅡA 日本語3	日本事情 II B 日本語4] -	● 日本事情ⅢA 日本語5	日本事情ⅢB 日本語6	-	日本事情IVA 日本語7	日本事情IVB 日本語8		生涯にわたって 探求しようとする	
国際的に通用する幅広い知識を			トューフシコ	ニュニケーション1	٦ _	トューフシコミ	ュニケーション2	1 _	. F1-7'/73	ニュニケーション3	-		演習		姿勢(生涯学習 力)	
持ち、芸術文化 の発展に貢献で	Ī	間	C1 1/24	11-7 7471		インターンシップ I (R6s	年度入学生まで履修可) 度以降入学生より履修可)	=	・ インターンシップ II (R6:	年度入学生まで履修可)		11 1/4	1-7 7174	_		
きる人材育成。	1 1	教 育 科				イヤリア 天成(R/年)		して、	オーケストラ等の指導)I A・I B	年度以降入学生より履修可)					多様な価値を認 め、主体性をもっ	
。 身に着けた知識	i	Ë								、オーケストラ等の指導)Ⅱ A・Ⅱ B 等の授業等補助)Ⅰ A・Ⅰ B				-	て積極的に社会 に貢献しようとす る意欲(社会的	
ウスキルを統合 上、問題解決力と 新たな価値の創								1			校等の	授業等補助)Ⅱ A・ⅡB			責任・チームワー ク・リーダーシッ	
造につなげていく 能力や姿勢を育 成する。	文化教	養科目				コンピュージュージック演習IA	コンピュージュージック演習IB	J -	→ コンピューダミュージック演習 II A	コンピュータミューシック演習ⅡB					プ)	
職課程履修者は一	教職	課程	教職入門 教育学概説	教育心理学 教育相談·進路指導		教育行政 道徳教育の指導法 音楽科教育法A	生徒指導の方法及び教育課程の意義と編成 音楽科教育法B 音楽における情報機器の活用		教育方法(情報通信技術を活用した 教育の理論及び方法を含む) 音楽科教材研究A	総合的な学習の時間の指導法 音楽科教材研究B		教育実習指導 教育実習	教職実践演習(中·高)	 _ _ _	₫	
						特別活動の指導法	特別支援を必要とする生徒の理解				*	负採用試験受験特別講座				
	課外	講座					キャリアガ	゙ イダ.	ンス特別講座		#	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				

令和7年度 東邦音楽大学 音楽学部 音楽学科 【音楽療法専攻】 カリキュラムツリー(履修系統図)

		科目	の区分	<u> </u>	E次		·	E次]	34] [·	产次				
; <u>Y</u>				前期	後期		前期	後期 75×5° 1° TD	<u>.</u>	前期	後期 7.50.6° 1° II D] [1 . [前期	後期 7.00.6° L°TTD				_
	教養と技能およ びキャリアを育む 全学共通カリキュ	i i		スタンダート I A 全学共通科目(講義・演習系) (人間探究)哲学A・B(※令和7	スタンダート、IB 年度は未開講)/文化芸術論A・B	3/3≷1	スタンダード·ⅡA ニケーション論 <u>(社会的視点)</u> 日本国	スタンダート、ⅡB 憲法と生活A・B/国際理解と交	」 ➡ 流A•[> 【	スタンゲードⅢB を含むJA・B (自然理解) ひとを	」 ⇒ [売み解く	スタンダ・-ト*IVA 科学A・B/現代の心理学[発達/	スタンタ*-ト*ⅣB 心理を含む]A・B/コンピュ-タ演習		多面的な履修を 通して社会生活	・多岐にわたるま ジャンルに関す。 広い知識を有し、 奏楽器で適切にま することができ	る幅 、件 表現
	ラム「東邦スタンダード」を設置す	1	育	A • B スポーツ演習	スポーツ文化論											において必須とさ れる汎用的な能		
	る。	1	# 	△小一7.庚白	△小 −7 又 10 調		ウィーンの社会と文化A (R7年度入学生より選択)	ウィーンの社会と文化B (R7年度入学生より選択)	1						4	知 識	音楽療法や関 連領域の専門 必要な専門的知	識を
		Ī	外 国	ト・イツ語1	ト・イツ語2		ドイツ語3	ト・イツ語4	1				赤字 必修科目		‡	• 技	的知識を修得 し、実践や研究を行うことができる	5.
	広範で多様な基 礎知識の獲得と		の言	英語1 イタリア語1	英語2 イタリア語2	-	英語3 4977語3	英語4 イタリア語4					主告 福和力格车		Í	事攻分野を中心 とした知識と技能	できる。	_
多言	田 専門性を高める ために、体系的で 幅広い学修が可		語と	ト・イツ語圏異文化コミュニケーション1 英語圏異文化コミュニケーション1	ト・イツ語圏異文化コミュニケーション2 英語圏異文化コミュニケーション2		ドイツ語圏異文化コミュニケーション3 英語圏異文化コミュニケーション3	ト・イツ語圏異文化コミュニケーション4 英語圏異文化コミュニケーション4					青字 選択必修科	*B			・音楽療法の理論 技法等、及び関係	連寸
ŧ	能な科目群を設置する。		文 化		イタリア語圏異文化コミュニケーション2		4917語圏異文化コミュニケーション3	イタリア語圏異文化コミュニケーション・	ļ			_	黒字選択科目	_		国際的な視野に 立った広範な文 化の理解	る領域の幅広い 的知識を有し、そ を活用して実践す ことができる。	ಕ್ಷ ರಕ್ಷ
Í	能			和声学1 音楽の基礎理論A	和声学2 音楽の基礎理論B	-	和声学3	和声学4	_	対位法A 楽式論A	対位法B 楽式論B					IBOVE III		_ の
	専門的な方法論 と知識を学ぶた めに、順次性が		共 通	民族音楽学A	民族音楽学B					(作曲法・編曲法を含む)	(作曲法・編曲法を含む)					現代社会に必要 とされるコミュニ		精神
	あるカリキュラムを編成する。		専門	音楽史A 音楽療法概論	音楽史B	`	ı			ポピュラーミューシックA(作曲法・編 曲法を含む)	ボピュラーミュージックB(作曲法・編 曲法を含む)				, =	思 ケーション能力		•
			教育	业场车的对应/-#关系\	-							-			3	ъ D		教育
	高い芸術性を修 得するため、専攻		科 目							「楽概論A・B/ <mark>音楽療法的音楽論</mark> ノ作品研究〔歌曲〕A・Bノアジア を				、学生より履修可)(R7年度は未		体系的学修と実 践に基づいた課		の
	実技は個人レッ スンを実施する。			用語ノノ目来心理于バーリングパ	(日末牧岬岬(バ/千)及は木併語)	/ 1FB	ロリカし純金JA・D/ TF叫り九し目	(123未) N・D/ 1F間切え(オペ)	ט-אנ.	/ 15回列元(弘田)なロ/ アン/ 目	未入11調(11/十戊は不開語)/	日未ご	山争(7和/千茂は不用語)			新 題の発見、分析、 カ 解決をする能力		理念
				音楽療法 1	音楽療法 2	-	音楽療法 3	音楽療法 4	_	音楽療法 5 (実習を含む)	音楽療法 6 (実習を含む)	-	音楽療法 7 (実置を含む)	音楽療法 8 (実習を含む)	ā	表		辛
	専攻を超えて、幅									音楽療法実習I	音楽療法実習Ⅱ	-	音楽療法実習Ⅲ	音楽療法実習Ⅳ	1	現 力 自己発信のプレ ゼンテーション能		【音楽芸術研鑽
	広い領域の科目 を履修し総合的			合唱IA	合唱 I B	-	合唱ⅡA	合唱ⅡB	-	合唱ⅢA(歌唱指導法・日本の伝統 的な歌唱を含む)	合唱ⅢB(歌唱指導法・日本の伝統 的な歌唱を含む)	i - i	合唱ⅣA	合唱ⅣB		Э		術
カ	視点を養う。						副科声楽IA	副科声楽IB	→	副科声楽ⅡA	副科声楽ⅡB				デ			一研
リキ		音		副科ピアノIA 副科管弦打楽器IA	副科ピアノIB 副科管弦打楽器IB	-	副科ピアノII A 副科管弦打楽器 II A	副科ピアノⅡB 副科管弦打楽器ⅡB	_	・ 副科ピアノⅢA	副科ピアノⅢB	J - [副科ピアノIVA	副科ピアノIVB	ィ プ	専門分野を超え て問題を探求す る姿勢		<u></u>
ュラ		楽専		室内楽 I A 木管楽器クラス	室内楽 IB 木管楽器クラス/金管楽器クラス	-	室内楽ⅡA 木管楽器クラス/金管楽器クラス	室内楽ⅡB 木管楽器クラス/金管楽器クラス										貫
ムポ	考	教育		打楽器クラス/弦楽器クラス	打楽器クラス/弦楽器クラス		打楽器クラス/弦楽器クラス	打楽器クラス/弦楽器クラス]						マポ			教育
リ	刀 • 	科目	音 楽	ギター (R7年度入学生より履修可)	音楽教育学 (R7年度入学生より履修可)	-	音楽療法の理論と技法A (R6年度入学生まで履修可)	音楽療法の理論と技法B (R6年度入学生まで履修可)	-	•	音楽療法各論	(児童)(精神科)(高齢者)		リシ			を通
シー	时 新知識の活用能 カカ、批判的・論理		療 法 専	コミュニケーション技能 I (R7年度入学生より履修可)	コミュニケーション技能 Ⅱ (R7年度入学生より履修可)		音楽療法の諸理論 (R7年度入学生より履修可)	音楽療法の研究 (R7年度入学生より履修可)							1	国際感覚を身に 着け、世界に踏		Ü,
3	■ 的思考力、課題 ■ 探求力、問題解		攻 科				人間と医療IA	人間と医療 I B]	人間と医療 II A	人間と医療ⅡB					み出そうとする意 欲		情操
Į	ス 決力、表現能力、 コミュニケーショ カ ン能力の育成の		Ë							障害学A (R6年度入学生まで履修可)	障害学B (R6年度入学生まで履修可)							· 操
ĺ	プレート フェイン フェイン ため、アクティブ・ ラーニングを取り									特別支援教育A (R7年度入学生まで履修可)	特別支援教育B (R7年度入学生まで履修可)							か
	入れた参加型の 少人数授業を実									臨床心理学IA	臨床心理学 I B	-	臨床心理学Ⅱ		j 2	意 欲		な人
	施する。						教材伴奏法IA	教材伴奏法 I B	٦ _	合奏A(和楽器を含む) 教材伴奏法ⅡA	合奏B(和楽器を含む) 教材伴奏法ⅡB				F	• •		格
				オーケストラ I A	オーケストラ I B	-	オーケストラⅡ A	オ−ケストラⅡB	,	教材计类法证 A	教物计奏法证	1			1	Ù		形
				ウインドオーケストラ I A	ウインドオーケストラ IB		ウイント・オーケストラ II A	ウイント*オーケストラ I B	_						ī	自己や他者の役割を理解し、協働できる広い視野		を
				ピアノ指導者を目指す人のた めの音楽教育学入門A	ピアノ指導者を目指す人のた めの音楽教育学入門B										i i	(自己管理能力・チームワーク)		人格形成を目途とす
				ソルフェーシ *ュ1	ソルフェージ・12	-	ソルフェージ*13	ソルフェーシ*ュ4] -	キーポードハーモニーA	キーポードハーモニーB]						눈
	国際的に通用する幅広い知識を	Ш									学内実習発表]		卒業研究発表				る
Ţ.	持ち、芸術文化 ・		学生 - 目	日本事情 I A 日本語1	日本事情 I B 日本語2	-	日本事情ⅡA 日本語3	日本事情 II B 日本語4	_	日本事情ⅢA 日本語5	日本事情ⅢB 日本語6	-	日本事情ⅣA 日本語7	日本事情ⅣB 日本語8		生涯にわたって 探求しようとする 姿勢(生涯学習]
â	· C 0 7 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 1								_	ウィーンアカデミー(ウィーン研修)(F	77年度入学生より履修不可)	- [演奏	演習		力) 力)		
月	男 心		人間	とューマンコミ :	1ニケーション1	-	ヒューマンコミ: インターンシップ I (R6年	1ニケーション2	<u>-</u>		ロングーション3	-	ヒューマンコミ	ュニケーション4		2 W L P W L 22		
	身に着けた知識やスキルを統合		製					『以降入学生より履修可)	-	インターンシップ(R7年	F度八字生まで腹惨可) F度以降入学生より履修可)					多様な価値を認 め、主体性をもっ て積極的に社会		
Į.	し、問題解決力と 新たな価値の創		라 -				<u> </u>	地域創造①(地域貢献と	して、	オーケストラ等の指導)IA・IB 地域創造①(地域貢献として	、オーケストラ等の指導)Ⅱ A・ⅡB					に貢献しようとする意欲(社会的責		
l l	生 造につなげていく 能力や姿勢を育	'	1								等の授業等補助)ⅠA・IB					任・チームワー ク・リーダーシッ		
	成する。		***				my Lo ha whates a	male to a section to	1	my Lot and the second was		≃校等の 	授業等補助)Ⅱ A・Ⅱ B			プ)		
			養科目				コンピュー矢ューシック演習IA			7,21 /17 / ///// 21] 						
教	水職課程履修者は 一 一 一 一 一 の 科目は必修	ą	敗職課程	教職入門 教育学概説	教育心理学 教育相談·進路指導		⇒ 教育行政 道徳教育の指導法 音楽科教育法A	音楽科教育法B 音楽における情報機器の	D活用		ルた 総合的な学習の時間の指 音楽科教材研究B	導法	◆ 教育実習指導 教育実習	教職実践演習(中•高)				
							特別活動の指導法	特別支援を必要とする生徒					教員採用試験受験特別講座					
			課外講座					++	リアガ	ゴイダンス特別講座			20只14月145天式可力時圧					

<u>令和7年度 東邦音楽大学 音楽学部 音楽学科【音楽創造専攻】カリキュラムツリー(履修系統図)</u>

		科目の区分	1 }		後期		<i>2年</i> 前期	後期	ł	前期	<i>午八</i> 後期		前期	4年次	後期				
			i i	スタンタ゚ード I A	スタンタ゚ート゚ I B	→	スタンタ゚ート゚Ⅱ A	スタンタ゚ート゚ⅡB	i -	→ スタンダ [*] ート [*] ⅢA	スタンタ゚ート゚ⅢB	→	スタンダ [°] ート [°] IV A		スタンタ・ート・IVB			・西洋音楽史にお	*
	教養と技能およびキャリアを育む 全学共通カリキュラム「東邦スタン	基礎教育		全学共通科目(講義·演習系) (人間探察)哲学A-B(※会和75	・ 在度は表聞講)/文化芸術論A・B	/73154	- >=>論 (計会前提点) 日本国憲	『法と生活A・B/国際理解と交流	л А • В	3/社会福祉概論〔老人・児童福祉を	- 今か]A・R (自然理信) びかとを読み	「解く科!	学A• R/現代の心理学[発達	心理を含	まごA・R/コンピューな演習A・R		多面的な履修を 通して社会生活 において必須とさ	・四洋音楽文にも ける作曲技法を打 解し、実践に活か すことができる。	理 か
	ダード」を設置する。	科目		スポーツ演習	スポーツ文化論	/ - </td <td>/ / / mi<u>(i本本#70#////</u>日平日心</td> <td>(風と土頂バッ/ 国際・土)がことが</td> <td></td> <td>プログログラグ</td> <td>HOW DEED COMME</td> <td>MT \$171</td> <td>1 / D/ 90 1 40 / D Z 1 () D Z</td> <td>0-1-6-11</td> <td>CON DIEST PIRENT</td> <td>fr:</td> <td>れる汎用的な能力</td> <td>専門分野で ・クラシック音楽の作曲技法を基礎 に、ジャズ・ポッラ</td> <td>楚</td>	/ / / mi <u>(i本本#70#////</u> 日平日心	(風と土頂バッ/ 国際・土)がことが		プログログラグ	HOW DEED COMME	MT \$171	1 / D/ 90 1 40 / D Z 1 () D Z	0-1-6-11	CON DIEST PIRENT	fr:	れる汎用的な能力	専門分野で ・クラシック音楽の作曲技法を基礎 に、ジャズ・ポッラ	楚
	00		<u> </u>	△小 /決日	ハホ /人に 調		ウィーンの社会と文化A	ウィーンの社会と文化B]							詞	u ŧ	ある首条副 造に関する 専門的知 専門的知	自
	ナケックがかせ	外国		ト・イツ語1 英語1	ト・イツ語2 英語2		ト・イツ語3 英語3	ドイツ語4 英語4					赤字 必修科	目		技	E =+./.Br++.	できる。 できる。	of the second
	広範で多様な基 礎知識の獲得と 専門性を高める	の言		7列7語1	イタリ7語2	→	イタリア語3	イタリア語4					青字選択必	收 到日		削	専攻分野を中心 とした知識と技能	の音楽を創造することができる。	建
失	ために、体系的で	語と		ト・イツ語圏異文化コミュニケーション1	ト・イツ語圏異文化コミュニケーション2		ト・イツ語圏異文化コミュニケーション3	トイツ語圏異文化コミュニケーション4					月子 选款处	1917 0				・創作の具体的な ヴィジョンを楽譜 して定着させるこ	学 子
i		文化		英語圏異文化コミュニケーション1 イタリア語圏異文化コミュニケーション1	英語圏異文化コミュニケーション2 イタリア語圏異文化コミュニケーション2		英語圏異文化コミュニケーション3イタリア語圏異文化コミュニケーション3	英語圏異文化コミュニケーション4 イタリア語圏異文化コミュニケーション4					黒字 選択科	B	_		国際的な視野に 立った広範な文 化の理解	と、及びハイレ ヴェルな音源をf 成することができ る。	_作 の
打自	支 能			和声学1 音楽の基礎理論A	和声学2 音楽の基礎理論B	-	和声学3	和声学4	-	⇒ 対位法A	対位法B						心心经所		_ 神
, i	専門的な方法論	_#		日来の基礎理論A 民族音楽学A	民族音楽学B					楽式論A (作曲法・編曲法を含む)	楽式論B (作曲法・編曲法を含む)						現代社会に必要		教
	と知識を学ぶた めに、順次性があ	通真		音楽史A	音楽史B					ポピュラーミュージックA(作曲法・編 曲法を含む)	ポピュラーミュージックB(作曲法・編 曲法を含む)					思	とされるコミュニケーション能力		育
	るカリキュラムを 編成する。	門	L	音楽療法概論		>				四瓜を日む7	шисно	l				オナ	5		の
		数 育 A														<u>*</u>	1		理念
	高い芸術性を修 得するため、専攻 実技は個人レッ スンを実施する。									音楽論(R6年度入学生まで履修可) /アジア音楽文化論(R7年度は未開				7年度はま	k開講)/音楽心理学A・B	· B ナ	体系的学修と実 践に基づいた課 題の発見、分析、 解決をする能力		【音楽芸術研鑽
	ヘンを天祀する。		† į	作曲 1	作曲 2	→	作曲 3	作曲 4] -	→ 作曲 5	作曲 6	-	作曲 7		作曲 8	表 罗	₹ 1		芸
カ				11-11-1			11.00		_	11-11-1			11-11-1			ナ] 自己発信のプレ ゼンテーション能		研
, J	専攻を超えて、幅 広い領域の科目			合唱 I A	合唱IB	-	合唱ⅡA	合唱ⅡB] •	→ 合唱ⅢA(歌唱指導法・日本の伝統 的な歌唱を含む)	合唱ⅢB(歌唱指導法・日本の伝統 的な歌唱を含む)	-	合唱IVA		合唱ⅣB	デ	カ		
キ	を履修し総合的 視点を養う。	音 楽					副科声楽IA	副科声楽IB	-	⇒ 副科声楽ⅡA	副科声楽ⅡB					イ プ			<u>の</u>
ュラ		専門		副科ピアノIA 副科管弦打楽器IA	副科ピアノIB 副科管弦打楽器IB	→	副科ピアノⅡ A 副科管弦打楽器 Ⅱ A	副科ピアノⅡB 副科管弦打楽器ⅡB	-	副科ピアノⅢA 副科管弦打楽器ⅢA	副科ピアノⅢB 副科管弦打楽器ⅢB	-	副科ピアノIVA 副科管弦打楽器IVA		副科ピアノIVB 副科管弦打楽器IVB		専門分野を超え て問題を探求す		貫
ム	<u> </u>	教育		町17日2011末曜1八	-		町17日2071末曜11八	-	ł	到17日20月末廿二八	到17日2371末前皿0	l	到17日3A11未被14人		町17日227] 未設17日	マポ	る姿勢		教
「ポリシ	ក់ •	科目音楽創		室内楽 I A 木管楽器クラス/金管楽器クラス 打楽器クラス/弦楽器クラス	室内楽 I B 木管楽器クラス/金管楽器クラス 打楽器クラス/弦楽器クラス	→	室内楽ⅡA 木管楽器クラス/金管楽器クラス 打楽器クラス/弦楽器クラス	室内楽 II B 木管楽器クラス/金管楽器クラス 打楽器クラス/弦楽器クラス								ハリシー			貫教育を通じ
Ī	「一知識の活用能 「力、批判的・論理」 力 的思考力、課題 ・ 探求力、問題解	造專		総合作曲演習 I A·B/総合作的	曲演習ⅡA•B/総合作曲演習Ⅲ	A • B(2	単位選択必修)									1	国際感覚を身に 着け、世界に踏 み出そうとする意		•
- - -	表 決力、表現能力、 コミュニケーショ	山 科 目	•	ソフトウェア演習 I A	ソフトウェア演習 I B	→	ソフトウェア演習 Ⅱ A	ソフトウェア演習 II B	-	ソフトウェア演習ⅢA	ソフトウェア演習ⅢB						欲		情操豊
j	兄 ン能力の育成の 力 ため、アクティブ・								-	合奏A(和楽器を含む)	合奏B(和楽器を含む)	 							豊か
	ラーニングを取り 入れた参加型の 少人数授業を実						教材伴奏法 I A	教材伴奏法 I B		⇒ 教材伴奏法 II A	教材伴奏法ⅡB					ŧ	F		かしなし
	施する。			オーケストラIA	オーケストラIB	→	オーケストラエA	オーケストラIB								從	自己や他者の役		,
				ウイント・オーケストラ I A	ウインドオーケストラ I B		ウイント*オーケストラ II A	ウインドオ−ケストラⅡB	J	ピアノ指導者を目指す人のた めの音楽教育学入門A	ピアノ指導者を目指す人のための音楽教育学入門B					艮心	割を理解し、協働できる広い視野(自己管理能力・チームワーク)		八格形成を目途とする
-			[ソルフェーシ゛ュ1	ソルフェージ*ュ2	→	ソルフェージ・13	ソルフェーシ*14	1 -	⇒	‡−ホ*−ト*ハ−モニ−B	! 				志	<u>.</u>		を
	国際的に通用する幅広い知識を] '				,		•		学内作品発表		-		卒業作品発表	后 性] E		目
	持ち、芸術文化 の発展に貢献で	留学生 科目		日本事情 I A 日本語1	日本事情 I B 日本語2	-	日本事情ⅡA 日本語3	日本事情ⅡB 日本語4	•	→ 日本事情ⅢA 日本語5	日本事情ⅢB 日本語6	-	日本事情IVA 日本語7		日本事情IVB 日本語8		生涯にわたって 探求しようとする		と
石谷	意 きる人材育成。 <mark>次</mark>]			'				ウィーンアカデミ	-(ウィーン研修)	-		演奏演習			姿勢(生涯学習 力)		る
i i	· 関			ヒューマンコミュ	1ニケーション1	→	ビューマンコミュ		•		ミュニケーション3	-	₺ 1−₹.	ンコミュニケー	ション4				_
ri		間教					インターンシップ I (R6年 キャリア実践(R7年度		:		年度入学生まで履修可) 年度以降入学生より履修可)						多様な価値を認		
7.	ます。 身に着けた知識 おくまま ちょうしょ 問題解決力と ままま しょ 問題解決力と ままま しょ 問題解決力と まままま しょ 問題解決力と まままままままままままままままままままままままままままままままままままま	育科					1177 284117 712		して、	、オーケストラ等の指導)I A・I B	十汉公阵八千工6 /被罗马/	l					め、主体性をもっ て積極的に社会		
[1	可 し、问题解決力と 新たな価値の創 造につなげていく	目									て、オーケストラ等の指導)ⅡA・ⅡB						に貢献しようとする意欲(社会的責		
	能力や姿勢を育成する。									地域制道②(地域の字校	等の授業等補助) I A・I B 地域創造②(地域の学	校等の)授業等補助)Ⅱ A・Ⅱ B				任・チームワー ク・リーダーシッ プ)		
	<i>72.7</i> Go																7)		
教	職課程履修者は			教職入門 教育学概説	教育心理学 教育相談·進路指導		→ 教育行政 道徳教育の指導法	生徒指導の方法及び教育課程の意 音楽科教育法B	義と	編成 ⇒ 教育方法(情報通信技術を活所を 教育の理論及び方法を含む	用した 総合的な学習の時間の指導	夢法	→ 教育実習指導 教育実習		教職実践演習(中•高)				
	~内の科目は必修	教職部	程	数月子概 就	秋月1100、延岭拍导		道徳教育の指導法 音楽科教育法A 特別活動の指導法	音楽における情報機器の 特別支援を必要とする生徒		用 音楽科教材研究A	音楽科教材研究B								
							14개/1931♥/旧等広	19か入版で必安にする主体	v/14				教員採用試験受験特別請	座					
		課外譚	座					キャ	リア:	ガイダンス特別講座				_					

令和7年度 東邦音楽大学 音楽学部 音楽学科 【管弦打専攻】カリキュラムツリー(履修系統図)

		科目の区分		1 <i>年</i>	後期		2 4	E <i>次</i> 後期		34 前期	E <i>次</i> 後期		前期	後期				
		基		スタンダ*ート* I A	スタンダ [*] ート* I B	-	スタンタ*ート* Ⅱ A	スタンダードⅡB] -	スタンタ*ート* Ⅲ A	スタンダードⅢB	-	スタンタ゚ード W A	スタンダ [*] ート* IV B				管弦打楽器の
	教養と技能およびキャリアを育む 全学共通カリキュラム「東邦スタンダード」を設	遊 機 教 育 科	Í	全学共通科目(講義・演習系) (人間標究)哲学A・B(※令和7: B	年度は未開講)/文化芸術論A・B	/コミュ:	- ケーション論 <u>(社会的視点)</u> 日本国	憲法と生活A・B/国際理解と交流	煮 A•B	/社会福祉概論〔老人・児童福祉を	含む]A·B <u>(自然理解)</u> ひとを読	み解く和	科学A・B/現代の心理学[発達心:	里を含む〕A・B/コンピュータ演習A・		多面的な履修を 通して社会生活 において必須とさ れる汎用的な能 カ		音楽の歴史や理論を体系的に理解し、時代様式 に沿った演奏ができる。
	置する。	B		スポーツ演習	スポーツ文化論		ウィーンの社会と文化A	ウィーンの社会と文化B	7							知 識	専門分野である管弦打 楽器に関す	・専攻楽器に関 する専門知識・
	広範で多様な基 礎知識の獲得と 専門性を高める ために、体系的	外国の言語と		ドイツ語1 英語1 イタリア語1 ドイツ語圏異文化コミュニケーション1	ドイツ語2 英語2 イタリア語2 ドイツ語圏異文化コミュニケーション2	-		ドイツ語4 英語4 イタリア語4 ドイツ語圏異文化コミュニケーション4	ļ.				赤字 必修科目			・ 技 専攻分野を中心 能 とした知識と技能	る、専門的 知識・技能を 修得し、多様 な音楽表現 ができる。	技能を修得し、ソ 上 ロ、オーケストラ 等の実践に活か
# #	ロ で幅広い学修が 成 可能な科目群を 設置する。	文化		英語圏異文化コミュニケーション1 イタリア語圏異文化コミュニケーション1 和声学1	英語圏異文化コミュニケーション2 イタリア語圏異文化コミュニケーション2 和声学2	-	英語圏異文化コミュニケーション3 イタリア語圏異文化コミュニケーション3 和声学3	英語圏異文化コミュニケーション4 イタリア語圏異文化コミュニケーション4 和声学4	4 ¬ →	対位法A	対位法B	1	黒字 選択科目			国際的な視野に 立った広範な文 化の理解		・専門以外の楽器の特性や他領域にも視野を拡げて演奏に活かすことができる。
į	専門的な方法論 と知識を学ぶた めに、順なコラム あるカリキュラム を編成する。	共通専門		音楽の基礎理論A 民族音楽学A 音楽史A 音楽療法概論	音楽の基礎理論B 民族音楽学B 音楽史B		100 2 2		_	楽式論A (作曲法・編曲法を含む) ポピュラーミュージックA(作曲法・編曲法を含む)	楽式論B (作曲法・編曲法を含む)					現代社会に必要とされるコミュニ 大一ション能力		
	高い芸術性を修得するため、専攻実技は個人レッスンを実施する。	教育科目								f楽論(R6年度入学生まで履修可) /アジア音楽文化論(R7年度は未				度は未開講)/音楽心理学A・		カ・ 判 体系的学修と実 強に基づいた課 力 題の発見、分析、 解決をする能力		
カ				<u>管弦打楽器 1</u>	管弦打楽器 2	-	管弦打楽器 3	管弦打楽器 4	_	管弦打楽器 5	管弦打楽器 6	-	<u>管弦打楽器 7</u>	管弦打楽器 8	デ	現 力 自己発信のプレ		
リ キ ュ	専攻を超えて、 幅広い領域の科 目を履修し総合 的視点を養う。	音楽専		合唱 I A	合唱IB	→	合唱ⅡA 副科声楽IA	合唱ⅡB 副科声楽ⅠB	-	合唱ⅢA(歌唱指導法・日本の伝統 的な歌唱を含む) 副科声楽ⅡA	合唱ⅢB(歌唱指導法・日本の伝統 的な歌唱を含む) 副科声楽ⅡB	-	合唱IVA	合唱IVB	ィプ	ゼンテーション能 カ		
ラムポポ		門		副科ピアノIA	副科ピアノIB	-	副科ピアノIIA	副科ピアノⅡB	-		副科ピアノⅢB	-	副科ピアノIVA	副科ピアノIVB	ロマ	専門分野を超え て問題を探求す る姿勢		
ーポリシ	表 等 コ	育科目 管		室内楽 I A 木管楽器クラス/金管楽器クラス 打楽器クラス/弦楽器クラス	室内楽 I B 木管楽器クラス/金管楽器クラス 打楽器クラス/弦楽器クラス	→	室内楽ⅡA 木管楽器クラス/金管楽器クラス 打楽器クラス/弦楽器クラス	室内楽ⅡB 木管楽器クラス/金管楽器クラス 打楽器クラス/弦楽器クラス	-	室内楽Ⅲ A 木管楽器クラス/金管楽器クラス 打楽器クラス/弦楽器クラス	室内楽ⅢB 木管楽器クラス/金管楽器クラス 打楽器クラス/弦楽器クラス	-	室内楽IVA 木管楽器クラス/金管楽器クラス 打楽器クラス/弦楽器クラス	室内楽IVB 木管楽器クラス/金管楽器クラス 打楽器クラス/弦楽器クラス	ポリシ	国際感覚を身に		
1	リ 知識の活用能 力、批判的・論理 の思考力、課題 アポカ・問題解	弦 打 專 攻		オーケストラ・ウィント・オーケストラの ための合奏ペーシック I A	オーケストラ・ウィント・オーケストラの ための合奏ペーシック I B		オーケストラ・ウィント・オーケストラの ための合奏ペーシック II A	オーケストラ・ウィント*オーケストラの ための合奏^*ーシックⅡB		オーケストラ・ウィント*オーケストラの ための合奏ペーシックⅢA	オーケストラ・ウィント・オーケストラの ための合奏ベーシックⅢB		オーケストラ・ウィント・オーケストラの ための合奏ペーシックⅣA	オーケストラ・ウィント*オーケストラの ための合奏ペーシックⅣB	I	着け、世界に踏 み出そうとする意 欲		
ā Į	決力、表現能力、 フミュニケーショ ン能力の育成の ため、アクティブ・	科目					教材伴奏法 I A	教材伴奏法 I B]	合奏A(和楽器を含む) 教材伴奏法 II A	合奏B(和楽器を含む) 教材伴奏法 II B							
7	フーニングを取り 入れた参加型の 少人数授業を実 施する。			オーケストラ I A ウインドオーケストラ I A	オーケストラ I B ウイント・オーケストラ I B	-	オーケストラ Ⅱ A ウイント*オーケストラ Ⅱ A	オーケストラⅡB ウイント*オーケストラⅡB	-	オーケストラⅢA ウイント・オーケストラⅢA	オーケストラⅢB ウイント*オーケストラⅢB	-	オーケストラIVA ウイント*オーケストラIVA	オーケストラIVB ウイント*オーケストラIVB		意 自己や他者の役割を理解し、協働できる広い視野		
										ピアノ指導者を目指す人のた めの音楽教育学入門A	ピアノ指導者を目指す人のた めの音楽教育学入門B					*** できる広い視野 *** (自己管理能力・ 関 *** チームワーク) ** ・** ・** ・** ・** ・** ・** ・** ・** ・**		
-	国際的に通用す			y ル フェ−ジュ1	ソルフェージ・12	-	ソルフェ−ジ 13	yル71-シ*14] →	‡-ホ*-ト*ハ-モニ-A	キーホ*ート*ハーモニーB 学内演奏		-	卒業演奏		· 志 向		
Ţ. 2	る幅広い知識を 持ち、芸術文化 の発展に貢献で きる人材育成。	留学生 科目		日本事情 I A 日本語1	日本事情 I B 日本語2	→	日本事情ⅡA 日本語3	日本事情ⅡB 日本語4	-	日本事情皿A 日本語5	日本事情ⅢB 日本語6	-	日本事情IVA 日本語7	日本事情ⅣB 日本語8		生涯にわたって 探求しようとする 姿勢(生涯学習		
Ī	1								_	ウィーンアカテ゛ミー	-(ウィーン研修)] →	演奏	演習		カ) 		
1) 7	ス ラに着けた知識 コ やスキルを統合	人間教育		ビューマンコミ :	1ニケーション1	-	インターンシップ I (R6年	1 <u>-ケーション2</u> F度入学生まで履修可) E以降入学生より履修可)	- -	インターンシップ II (R64 インターンシップ(R74	1 <u>-</u> ケーション3 F度入学生まで履修可) F度以降入学生より履修可)	-	とューマンコミ:	ニケーション4		多様な価値を認め、主体性をもって積極的に社会		
†	し、問題解決力と 新たな価値の創 造につなげていく 能力や姿勢を育 成する。	科目						地域創造①(地域貢献と	して、		、オーケストラ等の指導)Ⅱ A・Ⅱ B 等の授業等補助)I A・I B		N. LETT Mills After Links FU N. TV A. T. T.			に貢献しようとす る意欲(社会的 責任・チームワー ク・リーダーシッ プ)		
	みなりる。	文化教養科目					コンピューダュージック演習IA	コンピューダミュージック演習IB] →	コンピューダュージック演習 II A	地域創造(2)(地域の与	-校等0)授業等補助)ⅡA•ⅡB					
	教職課程履修者は ~内の科目は必修			教職入門 教育学概説	教育心理学 教育相談·進路指導		● 教育行政 道德教育的指導法 音楽和教育法A 特別活動の指導法		意義と編 の活用	成	した		→ 教育実習指導 教育実習	教職実践演習(中・高)				
		課外講題	奎					•		イダンス特別講座			教員採用試験受験特別講座					

令和7年度 東邦音楽大学 音楽学部 音楽学科 【声楽専攻】 カリキュラムツリー(履修系統図)

		科目の区分		手次		24			34			4年	•					
		114023	前期	後期	L	前期	後期		前期	後期		前期	後期					
	教養と技能およ	基	スタンダート I A	スタンタ*ート* I B	-	スタンタ*ート* II A	スタンタ*ート*ⅡB	→	スタンダ°−ト°ⅢA	スタンタ [*] −ト [*] ⅢB	•	スタンダ [*] ート*IVA	スタンダ [*] −ト ゙Ⅳ B				・声楽の基本技術を身につけ、	
	びキャリアを育む 全学共通カリキュ ラム「東邦スタン ダード」を設置す		全学共通科目(講義・演習系) (人間標究)哲学A・B(※令和7 A・B	年度は未開講)/文化芸術論A・B/	コミュニケー	->ョン論 <u>(社会的視点)</u> 日本国語	憲法と生活A・B/国際理解と交流	₹A•B	/社会福祉概論[老人・児童福祉を	:含む]A・B (自然理解) ひとを読み解	¥〈科学A·	·B/現代の心理学[発達心理	里を含むJA・B/コンピュータ演習		多面的な履修を 通して社会生活 において必須とされる汎用のな能	専門分野である声楽に関する、専	実践することができる。	
	ప .	I I	スポーツ演習	スポーツ文化論		ウィーンの社会と文化A	ウィーンの社会と文化B	l						4	如	門的知識・技能を修得し、声楽の特	・声楽の多様な 形態における言	
	広範で多様な基 礎知識の獲得と 専門性を高める ために、体系的で	外国の言語と	ドイツ語1 英語1 イタリア語1 ドイツ語圏異文化コミュニケーション1	ドイツ語2 英語2 イタリア語2 ドイツ語圏異文化コミュニケーション2	→ F	ドイツ語3 英語3 イタリ7語3 ・イツ語圏異文化コミュニケーション3	ドイツ語4 英語4 英語4 イタリア語4 ドイツ語圏異文化コミュニケーション4					赤字 必修科目		1	東 東 京 東 京 京 京 京 京 日 市 は とした知識と技能	一般では 一般でを でを でを でを 表知 まえ を 表現 まま まま まま まま で で で で で で で で で の で の で の で も の で も の で も の で も の も の も の も の も の も の も の も の も の も の の も る ら る る る る る る る る る る る る る	おかり職を身につけ、歴史的背景を踏まえた演奏ができる。	建学の
知 論 ·	┛幅広い学修が可	北	英語圏異文化コミュニケーション1 イタリア語圏異文化コミュニケーション1	英語圏異文化コミュニケーション2 イタリ7語圏異文化コミュニケーション2		英語圏異文化コミュニケーション3 タリア語圏異文化コミュニケーション3	英語圏異文化コミュニケーション4 イタリア語圏異文化コミュニケーション4					黒字 選択科目	H		国際的な視野に立った広範な文化の理解	ే	・専門領域以外 にも視野を拡げ て演奏に活かす ことができる。	精神
技能	専門的な方法論 と知識を学学がた めに、順ケュラム あた細成する。	共通専門	和声学1 音楽の基礎理論A 民族音楽学A 音楽史A 音楽療法概論	和声学2 音楽の基礎理論B 民族音楽学B 音楽史B	-	和声学3	和声学4] →	対位法A 楽式論A (作曲法・編曲法を含む) ボビュラーミュージックA(作曲法・編曲法を含む)	対位法B 楽式論B (作曲法・編曲法を含む) ポピュラーミュージックB(作曲法・編 曲法を含む)	ľ				現代社会に必要とされるコミュニケーション能力			・教育の理念
	高い芸術性を修 得するため、専攻 実技は個人レッ スンを実施する。	教 · · 科 目	共通専門科目(講義系) 指揮法/音楽文化論A·B(R7年 B/現代音楽教師論(令和7年度	F度は未開講)/日本音楽史概説 度は未開講)作品研究〔鍵盤〕A・B	・B/音 /作品研	音楽音響メディア論A・B/日本 所究〔管弦楽〕A・B/作品研究	の伝統音楽概論A・B/音楽療 [オペラ]A・B/作品研究〔歌曲	去的音]A·B	音楽論(R6年度入学生まで履修可 /アジア音楽文化論(R7年度は未)/日本と世界のポピュラ―音楽(R7 開講)/音楽と仕事(令和7年度は未	7年度以陷 未開講)	春入学生より履修可)(R7年	度は未開講)/音楽心理学A・	2 年 日 2 元	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・			【音楽芸術研
カリュ		音	<u>声楽 1</u>	声楽 2	-	<u>声楽 3</u>	<u>声楽 4</u>	-	<u>声楽 5</u>	<u>芦秦 6</u>	•	<u> 声楽 7</u>	<u>声楽 8</u>	ディ	現 力 自己発信のプレ			鑚の
キュラ	専攻を超えて、幅 広い領域の科目 を履修し総合的	門	合唱 I A	合唱 I B	- [合唱ⅡA	合唱ⅡB	-	合唱ⅢA(歌唱指導法・日本の伝統 的な歌唱を含む)	合唱ⅢB(歌唱指導法・日本の伝統 的な歌唱を含む)	•	合唱ⅣA	合唱IVB	プロ	ゼンテーション能力			一貫教
ムポ	^_ }	教	副科ピアノIA 副科管弦打楽器IA	副科ピアノIB 副科管弦打楽器IB	-	副科ピアノⅡ A 副科管弦打楽器 Ⅱ A	副科ピアノⅡB 副科管弦打楽器ⅡB	→	副科ピアノⅢA 副科管弦打楽器ⅢA	副科ピアノⅢB 副科管弦打楽器ⅢB		副科ピアノIVA 副科管弦打楽器IVA	副科ピアノIVB 副科管弦打楽器IVB	マポリ	専門分野を超え て問題を探求す			教育
リシーサッチ	リ 知識の活用能 力、批判的・論理 的思考力、課題	目 声楽専攻	室内楽IA 木管楽器クラス/全管楽器クラス 打楽器クラス/弦楽器クラス	室内楽 I B 木管楽器クラス/金管楽器クラス 打楽器クラス/弦楽器クラス	-	室内楽ⅡA 木管楽器クラス/金管楽器クラス 打楽器クラス/弦楽器クラス	室内楽 II B 木管楽器クラス/金管楽器クラス 打楽器クラス/弦楽器クラス	-	室内楽Ⅲ A 木管楽器クラス/金管楽器クラス 打楽器クラス/弦楽器クラス	室内楽ⅢB 木管楽器クラス/金管楽器クラス 打楽器クラス/弦楽器クラス	木管	室内楽ⅣA 音楽器クラス/金管楽器クラス 「楽器クラス/弦楽器クラス	室内楽IVB 木管楽器クラス/金管楽器クラス 打楽器クラス/弦楽器クラス	ッシー	る姿勢 国際感覚を身に			育を通じ、
. 表	探求力、問題解決力、表現能力、 表フェニケーション能力の育成の	N A B			_	朗読法A〔ドイツ語〕	朗読法B[イクリア語]	l <u> </u>	合奏A(和楽器を含む)	合奏B(和楽器を含む) オ^*ラ研究 I B	_	オペラ研究ⅡA	オペラ研究ⅡB		着け、世界に踏み出そうとする意欲			情 操 豊
t	ため、アクティブ・ ラーニングを取り 入れた参加型の					教材伴奏法IA	教材伴奏法IB	_	教材伴奏法ⅡA	教材伴奏法ⅡB	~ <u></u>	4. AM 20 TV	4 . AMISC TO					か
	少人数授業を実 施する。		オーケストラ I A ウイント・オーケストラ I A	オーケストラ I B ウイント*オーケストラ I B	-	オーケストラ Ⅱ A ウイント・オーケストラ Ⅱ A	オーケストラⅡB ウイント*オーケストラⅡB		ピアノ指導者を目指す人のための音楽教育学入門A	ピアノ指導者を目指す人のための音楽教育学入門B				j 2	自己や他者の役割を理解し、協働できる広い視野(自己管理能力・			な人格
			ソルフェージ ±1	ソルフェーシ*ュ2	-	ソルフェージ*13	ソルフェーシ *14	-	‡-ボ-ドハ-モニ-A	キーホ*ート*ハーモニーB 学内演奏		→ [卒業演奏		・ (日に官理能力・ チームワーク) ひ			形成
	国際的に通用す る幅広い知識を 持ち、芸術文化 の発展に貢献で	留学生 科目	日本事情 I A 日本語1	日本事情 I B 日本語2	→	日本事情 II A 日本語3	日本事情 II B 日本語4	→	日本事情ⅢA 日本語5	日本事情ⅢB ➡ 日本語6	•	日本事情IVA 日本語7	日本事情IVB 日本語8	Ā	き 生涯にわたって 探求しようとする			人格形成を目途とす
意	た きる人材育成。							ı	ウィーンアカテ*ミー	(ウィーン研修)	• 🗀	演奏》	黄習	t	生 姿勢(生涯学習 力)			とす
関心	1	싪	<u> と</u> ューマンコミ	ュニケーション1	→ [ヒューマンコミュ		-		= + ->=>3	•	£1-7/381	ニケーション4					る]
志						インターンシップ I (R6年 キャリア実践(R7年度	E以降入学生より履修可)	→	インターンシップ II (R6年 インターンシップ(R7年						多様な価値を認め、主体性をもって積極的に社会			
性	やスキルを統合 し、問題解決力と 新たな価値の創	科			1		地域創造①(地域貢献と	ノて、オ	オーケストラ等の指導) I A・I B 地域創造①(地域貢献として.	、オーケストラ等の指導)Ⅱ A・ⅡB					に貢献しようとする意欲(社会的責			
	造につなげていく									等の授業等補助)IA・IB					任・チームワーク・リーダーシッ			
	能力や姿勢を育成する。									地域創造②(地域の学校等	等の授業等	等補助)ⅡA・ⅡB			ヺ゚			
		文化教養科 目				コンピュータミュージック演習IA	コンピューダュージック演習IB	-	コンピュータミュージック演習ⅡA	コンピュータミュージック演習ⅡB								
-—— 教I	職課程履修者は 一 一 で内の科目は必修		教職入門教育学概説	教育心理学 教育相談·進路指導	-	教育行政 道徳教育の指導法 音楽科教育法A 特別活動の指導法		活用	成 ⇒ 教育方法(情報通信技術を活用 教育の理論及び方法を含む) 音楽科教材研究A	した 総合的な学習の時間の指導法 音楽科教材研究B		教育実習指導教育実習	教職実践演習(中・高)					
		課外講座					キャ	ノアガ	 イダンス特別講座		教員	員採用試験受験特別講座						
			—															

令和7年度 東邦音楽大学 音楽学部 音楽学科 【ピアノ専攻】 カリキュラムツリー(履修系統図)

		科目の区	分	<i>1年</i> 前期	E <i>次</i> 後期] [24 前期	王次 後期		3.4 前期	後期		<i>44</i>	E次 後期					
···········			'			 						. 1			,				
	教養と技能およ	基		スタンダート I A	スタンダート* I B	」 → [スタンタ*ート*ⅡA	スタンタ*ート*ⅡB	-	スタンタ*ート*ⅢA	スタンタ*ート*ⅢB	→	スタンタ*ート* IV A	スタンタ*ート* Ⅳ B		多面的な履		-鍵盤音楽の歴	
	びキャリアを育む 全学共通カリキュ	礎 教		全学共通科目(講義・演習系)												修を通して社 会生活におい		史や理論を体系 的に理解し、時代 様式に沿った演	ŧ
	ラム「東邦スタン ダード」を設置す	育科		(人間探究)哲学A·B(※令和74	年度は未開講)/文化芸術論A・B	3/3ミュニケ	ーション論 <u>(社会的視点)</u> 日本国語	最法と生活A・B/国際理解と交流A	\• B/∤	t会福祉概論〔老人・児童福祉を1	含む]A·B <u>(自然理解)</u> ひとを読み解ぐ	〈科:	学A・B/現代の心理学[発達心理	lを含む]A·B/コンピュータ演習A·B		て必須とされ る汎用的な能	専門分野で	奏ができる。	
	ప .	i ii		スポーツ演習	スポーツ文化論] ,	4. \#\								4	a	あるピアノ演 奏において、		
		Ιг.	. 	ト・イツ語1	ト・イツ語2	1	ウィーンの社会と文化A ドイッ語3	ウィーンの社会と文化B ドイツ語4							1	載	専門的知 識・技能を修	・多彩な演奏技 術を身に付け表	
	広範で多様な基	5	1	英語1	英語2		英語3	英語4					赤字 必修科目				m~~~	押オスニレポガキ	建
	礎知識の獲得と 専門性を高める	1	t l	イタリア語1 ドイツ語圏異文化コミュニケーション1	イタリア語2 ト・イツ語圏異文化コミュニケーション2	-	イタリア語3 ト・イツ語圏異文化コミュニケーション3	イタリ7語4 ト・イツ語圏異文化コミュニケーション4					23112	_		能は技能	ルを確率することができる。		学の
矢	ために、体系的で 幅広い学修が可			英語圏異文化コミュニケーション1	英語圏異文化コミュニケーション2		英語圏異文化コミュニケーション3	英語圏異文化コミュニケーション4					青字選択必修科目	_		国際的な視	3 00	·専門領域以外	精
諳	能な科目群を設置する。			イタリア語圏異文化コミュニケーション1	イタリア語圏異文化コミュニケーション2] [イタリア語圏異文化コミュニケーション3	イタリア語圏異文化コミュニケーション4					黒字選択科目	_		野に立った広範な文化の		にも視野を拡げて演奏に活かすことができる。	神
技	ŧ		_ [和声学1	和声学2] 🗕 [和声学3	和声学4	-	対位法A	対位法B			_		理解			教
削	È			音楽の基礎理論A	音楽の基礎理論B	'				楽式論A	楽式論B				ľ				育
	専門的な方法論と知識を学ぶた	#		民族音楽学A 音楽史A	民族音楽学B 音楽史B					(作曲法・編曲法を含む) ポピュラーミュージックA(作曲法・編	(作曲法・編曲法を含む)					現代社会に 必要とされる			の
	めに、順次性があるカリキュラムを	j	Į I	音楽療法概論	日本文	J				曲法を含む)	ポピュラーミュージックB(作曲法・編 曲法を含む)					コミュニケー ション能力			理念
	編成する。				•	>										5 力			忍
			f													- 判 体系的学修と			音
	高い芸術性を修										/日本と世界のポピュラ一音楽(R7s			度は未開講)/音楽心理学A・B		折 実践に基づ			楽
	得するため、専攻実技は個人レッ			/現代音楽教師論(令和7年度)	は未開講)作品研究[鍵盤]A・B <i>,</i>	/作品研	研究[管弦楽]A·B/作品研究[:	オペラ]A・B/作品研究[歌曲]A・	·B/7	'ジア音楽文化論(R7年度は未開	講)/音楽と仕事(令和7年度は未開	引講.)			りた課題の発 見、分析、解			云
4	スンを実施する。	_	_ ,		I	1 .		T								決をする能力 長			【音楽芸術研鑽の
カリ		훂		<u>ピアノ 1</u>	<u>ピアノ 2</u>	-	ピアノ 3	<u>ピアノ 4</u>	-	<u>ピアノ 5</u>	<u>ピアノ 6</u>	•	<u>ピアノ 7</u>	<u>ピアノ 8</u>	デ	兄 力			鑚
+	専攻を超えて、幅	楽	'												ィプ	自己発信の プレゼンテー			の
ュラ	広い領域の科目 を履修し総合的	専門		合唱IA	合唱 I B	-	合唱ⅡA	合唱ⅡB	=	合唱ⅢA(歌唱指導法・日本の伝統 的な歌唱を含む)	合唱ⅢB(歌唱指導法・日本の伝統 的な歌唱を含む)	-	合唱ⅣA	合唱ⅣB		ション能力			貫
フル	視点を養う。	教育	,			,	副科声楽IA	副科声楽IB	=	副科声楽ⅡA	副科声楽ⅡB	,			マ	専門八服ナ			教
ムポオ	<u> </u>	科		副科管弦打楽器IA	副科管弦打楽器IB	-	副科管弦打楽器ⅡA	副科管弦打楽器ⅡB		副科管弦打楽器ⅢA	副科管弦打楽器ⅢB	→	副科管弦打楽器ⅣA	副科管弦打楽器IVB	ポ	専門分野を超えて問題を			貫教育を通じ
リ・		t		室内楽IA	室内楽ⅠB	-	室内楽ⅡA	室内楽ⅡB	-	室内楽ⅢA		→	室内楽IVA	室内楽IVB	リシ	探求する姿勢			を
シ ト 田	j 知識の活用能 力、批判的・論理	;	,	木管楽器クラス/金管楽器クラス 打楽器クラス/弦楽器クラス	木管楽器クラス/金管楽器クラス 打楽器クラス/弦楽器クラス		木管楽器クラス/金管楽器クラス 打楽器クラス/弦楽器クラス	木管楽器クラス/金管楽器クラス 打楽器クラス/弦楽器クラス		木管楽器クラス/金管楽器クラス 打楽器クラス/弦楽器クラス	木管楽器クラス/金管楽器クラス 打楽器クラス/弦楽器クラス		木管楽器クラス/金管楽器クラス 打楽器クラス/弦楽器クラス	木管楽器クラス/金管楽器クラス 打楽器クラス/弦楽器クラス	ĺ	国際感覚を			じ
' j	的思考力、課題 探求力、問題解	Į.] [合奏A(和楽器を含む)	合奏B(和楽器を含む)					身に着け、世 界に踏み出			•
表	決力、表現能力、 フミュニケーショ	Į į	∔ [ピアノ指導者を目指す人のた	ピアノ指導者を目指す人のた] → [ピアノアンサンブルA	ピ ア/ア ンサンブルB	-	チェンバロ研究IA	チェンハ・ロ研究 I B	→	チェンパロ研究ⅡA	チェンパロ研究ⅡB		そうとする意 欲			情場
玛	ン能力の育成のため、アクティブ・	'	'	めの音楽教育学入門A 教材伴奏法 I A	めの音楽教育学入門B 教材伴奏法 I B	│	ピアノ伴奏法 I A 教材伴奏法 II A	ピアノ伴奏法 I B 教材伴奏法 II B		ピアノ伴奏法 Ⅱ A	ピアノ伴奏法 II B								豊
,	ラーニングを取り 入れた参加型の			秋何仟天丛 17	ANT XXIII] - [教物件来はエバ	秋州开关从正日								自己や他者			操豊かな人
	少人数授業を実 施する。			オーケストラIA	オーケストラIB	-	オーケストラエA	オーケストラIB								の役割を理意解し、協働で			なし
				ウイント*オーケストラ I A	ウインドオーケストラ I B] [ウイント*オーケストラ II A	ウイント*オーケストラ II B							i i	次 きる広い視野 (自己管理能			
				yルフェ−ジュ1	ソルフェージュ2] → [ソルフェージ・13	ソルフェージ*14	=	キーホート・ハーモニーA	キーホ*ート*ハーモニーB					カ・チーム ワーク)			形
	国際的に通用す										学内演奏		-	卒業演奏	') •			成
	る幅広い知識を 持ち、芸術文化	留学生 科目		日本事情IA	日本事情 I B	→	日本事情ⅡA	日本事情ⅡB	-	日本事情ⅢA	日本事情ⅢВ	•	日本事情IVA	日本事情IVB		ま 生涯にわたっ の て探求しよう			目目
意	の発展に貢献で きる人材育成。	171		日本語1	日本語2	J [日本語3	日本語4		日本語5	日本語6		日本語7	日本語8		生とする姿勢			途
從	t									ウィーン ア カテ'ミー	-(ウィーン研修)	→	演奏	演習		力)			格形成を目途とす
艮]			ヒューマンコミュ	, = <i>h</i> =3a51	1 → [トューブソコミ	ュニケーション2	_	トューブソフミ	ュニケーション3	_	トューブンコミ	1ニケーション4					3
ıΩ •	}	間		L1 1/40	1-7 7421	,		車度入学生まで履修可)	→		車度入学生まで履修可)	_	E (74)	1-7 7274		多様な価値を 認め、主体性			1
志	身に着けた知識 ウスキルを統合	育					キャリア実践(R7年月	度以降入学生より履修可)	→		F度以降入学生より履修可)					をもって積極 的に社会に			
性	し、問題解決力と 新たな価値の創	科目				1		地域創造①(地域貢献とし	て、 す		、オーケストラ等の指導)Ⅱ A・ⅡB					貢献しようと する意欲(社			
	造につなげていく 能力や姿勢を育										等の授業等補助)I A・I B					会的責任・			
	成する。										地域創造②(地域の学校	等の	授業等補助)Ⅱ A・Ⅱ B			ク・リーダー シップ)			
		文化教養	科			ſ	コンピュータミューシック演習IA	コンピュータミュージ・ック演習IB	-	コンピューダミュージック演習ⅡA	コンピュータミューシック演習 IB								
		目				L	-/ 八上 / //決日 1 八	7/11 ///次日 10	-	-/ / / / / / / / / / / / / / / / / /	-/ /_ / /// X II U								
	職課程履修者は			教職入門	教育心理学		★教育行政	生徒指導の方法及び教育課程の意味	養と編成	教育方法(情報通信技術を活用	した 総合的な学習の時間の指導法		→ 教育実習指導 ************************************	教職実践演習(中•高)					
	~内の科目は必修	教職	課程	教育学概説	教育相談・進路指導		道徳教育の指導法 音楽科教育法A	音楽科教育法B 音楽における情報機器の		教育の理論及び方法を含む) 音楽科教材研究A	音楽科教材研究B		教育実習						
							特別活動の指導法	特別支援を必要とする生徒の	の理解										
		課外	講座					+v1]	リアガ ィ	イダンス特別講座			教員採用試験受験特別講座						
								,											